

令和5年度
保護林モニタリング調査
公表資料

令和6年3月

四 国 森 林 管 理 局

有限会社 エー環境研究所

鷹取山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	四国森林管理局・四万十森林管理署
所在地	高知県梶原町（鷹取山国有林 4048 林班ほか）
面積	94.53 ha
設定年	設定：昭和 48 年 4 月 変更：平成 30 年 4 月
保護林の概要 （設定目的）	標高約 280～750m に位置し、暖温帯に属する。 モミが優占し、ツガ等の針葉樹に混じって、ウラジロガシ、イヌガシ、ホオノキ、ユズリハ等の広葉樹が生育している。 また、高知県の県鳥でもあるヤイロチョウの繁殖地でもある。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和 5 年度
調査項目	基礎調査、森林調査、動物調査
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ■基礎調査：資料調査、保護林情報図の作成、概況調査、聞き取り調査 ■森林調査：プロット調査（立木調査、植生調査、実生調査）、ライン高木調査、植物調査 ■動物調査（哺乳類）：自動撮影カメラの設置、巣箱かけ調査シカの被害状況調査、フィールドサイン調査 ■動物調査（鳥類）：ラインセンサス及びスポットセンサス、ヤイロチョウ調査
結果概要	<p>基礎調査：保護林内は、全て天然生林であった。病虫害、気象害はなし。資料及び聞き取り調査により、過去に保護林の一部ではカシノナガキクイムシによる被害が報告されている</p> <p>森林調査：いずれのプロットも優占種及び主要な構成種の生育状況に大きな変化はなく、目立つ森林の衰退はみられないと考えられる。現存するツガやモミなどの森林の主要な構成種へのニホンジカによる被害は軽微であると考えられる。下層植生の植被率は、低木層で 30-40%、草本層で 20% 以下であるが、保護林の主要な構成樹種のツガやモミの実生が点在しており、10 cm を超える実生・稚樹も比較的多いことから、後継木が生長しつつある状況と考えられる。</p> <p>動物調査：哺乳類は 10 科 13 種、鳥類は 21 科 33 種が確認された。希少種として哺乳類はヤマネ、ニホンリスの 2 種、鳥類はヤイロチョウ、クマタカなど 8 種が確認された。特定外来生物のソウシチョウが確認された。シカの被害状況調査において、ニホンジカによる食害や糞などの痕跡は少なく、被害レベルは 0-1 と判定された。</p>

西熊山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	四国森林管理局・高知中部森林管理署
所在地	高知県香美市（西熊山国有林 32 林班い小班ほか）
面積	478.99 ha
設定年	設定：平成 173 年 3 月 変更：平成 30 年 4 月
保護林の概要 (設定目的)	標高約 1,000~1,700m に位置し、暖温帯から冷温帯までの林相の垂直分布を見ることができる。 ダケカンパ、ブナ、ウラジロモミ、コハウチワカエデ、モミ、ツガ、イタヤカエデ、ケヤキ、トチノキ等多様な樹種が生育している。 ツキノワグマの生息が確認されている。

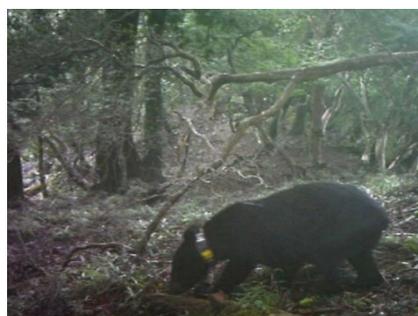


モニタリング調査の概要

実施年度	令和 5 年度
調査項目	基礎調査、森林調査、動物調査
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ■基礎調査：資料調査、保護林情報図の作成、概況調査、聞き取り調査 ■森林調査：プロット調査(立木調査、植生調査、実生調査)、ライン高木調査、植物調査 ■動物調査(哺乳類)：自動撮影カメラの設置、巣箱かけ調査シカの被害状況調査、フィールドサイン調査、コウモリ調査、ツキノワグマ調査 ■動物調査(鳥類)：ラインセンサス及びスポットセンサス
結果概要	<p>基礎調査：保護林内は、全て天然生林であった。病虫害、気象害はなし。</p> <p>森林調査：いずれのプロットも優占種及び主要な構成種の生育状況に大きな変化はなく、目立つ森林の衰退はみられないと考えられる。下層植生の植被率は、低木層で 10-30%、草本層で 10%以下であり、林床植生はニホンジカによる食害の影響を受けていると考えられる。実生調査では、ブナやモミなどの主要な構成樹種が確認されたが僅かであり、高さも 10 cm未満の種が多く、後継木が生長していないと考えられる。</p> <p>動物調査：哺乳類は 12 科 17 種、鳥類は 17 科 24 種が確認された。希少種として哺乳類はヤマネ、ツキノワグマなど 5 種、鳥類はクロツグミ、アカショウビンなど 6 種が確認された。シカの被害状況調査により、下層植生が疎らでシカの不嗜好性植物が多い状況、シカの痕跡が多い状況から、被害レベルは 3 と判定された。コウモリ調査では、モモジロコウモリ、テングコウモリの 2 種が確認された。</p>

石立山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	四国森林管理局・高知中部森林管理署
所在地	高知県香美市（別府山国有林 56 林班は小班）
面積	121.56 ha
設定年	設定：昭和 48 年 4 月 変更：平成 30 年 4 月
保護林の概要 （設定目的）	高知県西南部の橋原町大字中平から国道 439 号を約 1.5km 北上した四万十川の支流北川沿いの山腹斜面に位置する。森林帯は暖温帯林に属している。地形は全般に急峻で、モミの優占した林相であり、ツガ、ウラジログシ、サカキ等を交えた針広混交林である。標高の低い地域ではモミが、高い尾根筋ではツガが生育する。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和 5 年度
調査項目	基礎調査、森林調査、動物調査
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ■基礎調査：資料調査、保護林情報図の作成、概況調査、聞き取り調査 ■森林調査：プロット調査（立木調査、植生調査、実生調査）、ライン高木調査、植物調査、ビヤクシン調査 ■動物調査（哺乳類）：自動撮影カメラの設置、巣箱かけ調査シカの被害状況調査、フィールドサイン調査、ツキノワグマ調査 ■動物調査（鳥類）：ラインセンサス及びスポットセンサス
結果概要	<p>基礎調査：保護林内は、全て天然生林であった。病虫害、気象害はなし。</p> <p>森林調査：いずれのプロットも優占種及び主要な構成種の生育状況に大きな変化はなく、目立つ森林の衰退はみられないと考えられる。下層植生の植被率は、低木層で 20-40%、草本層で 2-50%であり、林床植生はニホンジカによる食害の影響を受けていると考えられる。実生調査では、モミやハリモミなどの主要な構成樹種が確認されたが僅かであり、高さも 10 cm未満の種が多く、後継木が生長していないと考えられる。ビヤクシン調査では 11 本を計測した。調査対象個体は、傾斜木や幹割れ、他種からの被圧を受け、生育状態がやや不良なものが多かったが、調査対象個体の周辺では、ビヤクシンの実生や幼木が散見された。</p> <p>動物調査：哺乳類は 13 科 17 種、鳥類は 15 科 34 種が確認された。希少種として哺乳類はヤマネ、ツキノワグマなど 5 種、鳥類はクマタカ、ジュウイチ 9 種が確認された。自動撮影カメラによる撮影結果は、ニホンジカの撮影割合が高かった。シカの被害状況調査により、下層植生が疎らでシカの不嗜好性植物が多い状況、シカの痕跡が多い状況から、被害レベルは 3 と判定された。また、保護林の一部（捨身ヶ岳周辺）では、高木層への影響もみられ、被害レベル 4 と判定される場所も存在する。</p>